

# 乳がんドックのすすめ



日本では乳がんにかかる女性が増えてきています。  
乳がん検診を受けることで、早期発見、早期診断、早期治療ができます。

## 40～50歳代の女性に増えつつある乳がん

現在、日本では乳がんが急増し1年間におよそ4万人が乳がんと診断され、胃がんや大腸がんと共に女性では最も多いがんになっています。特に40～50歳代の女性が乳がんにかかる割合が増加しており、死亡原因の高いがんの一つとなっています。

## 乳がんとは

乳がんの原因には、女性ホルモン（エストロゲン）が関与していると言われており、初潮が早い、閉経が遅い、初産年齢が遅い、または高齢で未産などがリスク因子として考えられています。また、食生活の欧米化により高脂肪食が増え、肥満になると、特に閉経後では、脂肪組織でエストロゲンが作られるため乳がんにかかる割合が高くなると考えられます。また、遺伝も関与するとされており、親戚や親族に乳がんにかかった人がいる場合も注意が必要です。

## 検診内容

**触診** 乳房に注意深く触れ、しこりの有無、大きさ、可動性、皮膚の変化、わきの下のリンパ節のはれなどを調べます。

**マンモグラフィ** マンモグラフィは乳房専用のX線撮影のことを言い、乳がん検診では標準的な検査になってきています。医師による触診だけではわからない、小さなしこりや石灰化を示す早期の乳がんを発見することができ、乳がんの早期発見が可能になります。乳房を圧迫して撮影し、乳房内部の乳腺を検査します。検査全体は10分程度かかりますが、圧迫をしている時間は数十秒です。ただし、40歳以下の若い人の場合は乳腺が豊富なため、異常を映しだすことが難しくなります。マンモグラフィで発見される乳がんの70%以上は早期がんで、乳房温存手術を受けることもできます。

**超音波検査** 乳房内での超音波の反射（エコー）を画像に映し出します。放射線被爆がないため、妊娠中の人や若い人、頻繁に検査を受ける人に適しています。

40才以上の方は、年に1回精密検査を受けることをお勧めします。また、閉経前の方であれば、月経が始まる直前は、乳房が硬くなったり、痛みを生じることがあるので、月経が始まって1週間後が最適です。乳がんは治癒率の高いがんであるため、早期発見できればほとんどが治ります。月に1度は自己検診をし、しこりや痛みなど、何らかの異常に気づいた時は、自己判断せず、すぐに病院を受診してください。

ドック料金（税込み） 1万5千円



詳しくは、乳腺外来（外科）までご相談ください。  
独立行政法人 国立病院機構 埼玉病院  
埼玉県和光市諏訪2番1号 TEL: 048-462-1101（代表）